

ヌーベル
文化賞

第1回受賞者決まる

郷土史
研究家

一色勝正氏

下総首人形
創作 者 松本節太郎氏

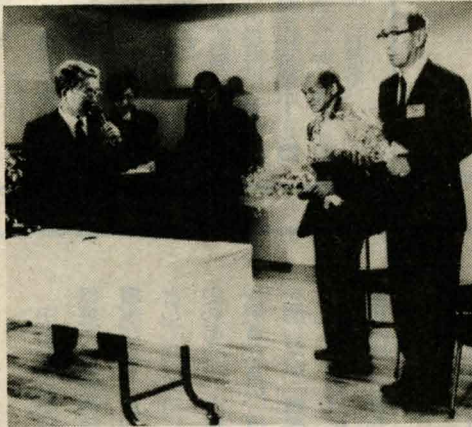
長年、地道な活動

柏の民間団体

柏市で昨年二月に発足した民間の文化振興団体「ヌーベル文化振興会」の第一回ヌーベル文化賞受賞者が、流山市在住の郷土史研究家、一色勝正氏と柏市在住の下総首人形などの創作家、松本節太郎氏に決定。十七日、柏市のJ.R柏駅東口前にある京北ホールで授賞式が行われ、両氏に表彰状と副賞として各二十万円の奨励金が贈られた。

一色氏は茨城県水戸市の生まれで、現住所は流山市東深井三〇七。四十三年、日本電電公社(当時)を定年退職したあと、若いころから手がけていた金石文(きんせきぶん)像、石碑など金属、石材に刻まれた文字の研究を本格的に開始。自転車で流山市をはじめ関宿、野田、流山、松戸、我孫子、沼南といった東葛地区を走り回り、板碑、石仏、石像の文字を解説しては、その結果を調査資料にまとめ、該当する市や町に無償で提供し続けている。現在、流山、我孫子市の文化財審議会委員、同市史編さん委員、沼南町史編さん委員会委員を務める。

松本氏は東京・下谷の染色店に生まれ、戦災で二十年三月、柏に移住。現住所は柏市根戸七六ノ四。終戦後、土の首人形を作ってみようと思い、自宅の裏山の粘土と即製のか



授賞式で花束を受ける一色氏(右)と松本氏。左は砂川会長

河童(かっぱ)、一文ひな、そして首人形など作品の種類はざっと千五百。水戸街道、七福神などと題した下総首人形がその中心で、柏市の名産品としても知られる。しかし戦後九年間もランブ生活だったという松本氏は、いまでも無動を対象に助成金を贈ろうと

を作りたいときだけ作るという生活だ。

昨年創設した団体で、柏市で美術工芸館を自宅に作り運営している砂川七郎さんが会長に就任、運営・審査委員には鈴木さんのほか生協役員の青木紀夫さん、旅行作家の山本鉦太郎さん、画家の内藤さだ子さんが名を挙げられている。